

有限会社旭日工芸

新型切削機導入で挑戦する 県外中小工務店への洋欄間建具の新展開

公共事業を受注して木製の建具などを製造しているが、学校や団地など、施設が大きくなると仕事量が膨大になり、機械化を進めなくては対応できない。そこで補助金を活用して2種の機械を導入、生産効率をさらに向上させている。



導入したパネルソー

課題

■ 公共事業を受注すると手作りでは限界がある

事業のきっかけ

当社は一般的な木製の建具家具のみならず、デザイン性の高い特注の建具家具など、現場への施工までの一貫した業務を請け負っている。現在は公共工事を受注し、当社全体の売上げに占める割合が大きい。たとえば団地の靴箱などである。団地全体を受注すると総計100個単位となり、手作りでは追いつかない。これまでも機械化を進め、職人が機械で大量生産できるよう体制を強化してきた。短い時間でどれだけ作れるかが大事になるが、公共工事件件の受注量が増加するなか、短期的には機械不足による職人の作業待ちや人材不足のなか、中長期的には機械を使用した若手育成の必要性を感じていた。

成果

■ 機械導入により製造ラインの工程改善
■ 熟練職人の作業を機械化

事業の取り組み～成果

補助金を活用し導入したのはパネルソーおよびNCルーターと呼ばれる機械である。パネルソーは木製の板をまっすぐに切るもので、家具や建具の部材を直線で正確にカットする。板を手作業でまっすぐに切るのはきわめて難しいため、その工程で製造ラインが詰まってしまうこともあるが、従来あったパネルソーに加えたことでさらに生産効率が上がった。NCルーターは木材に穴を開けたり曲線状に切ったりする機械である。特に穴開けの作業を手作業で行う際にはノミで彫る必要があったが、工程を自動化できたことで熟練職人が行っていた作業を若手人材がおこなえるため、機械化のメリットは大きい。

展望

■ オーダーメイドの家具製作にも手を広げたい

今後の展望

場所に合わせた大きさ、色、デザイン、素材など多様なニーズがあり、それに合わせた家具をオーダーメイドで作るといった特注家具の需要もあると考えている。こうした家具は部屋など置く場所に合わせたサイズで製作されるので既製品より強度が高いというメリットもある。現在は公共事業で手一杯だが、いずれこうした特注家具のジャンルにも手を広げたいと思っており、今回導入した機械はそうしたビジネスにも十分対応できそうだ。付加価値の高い建具の製造販売の新展開を行い、県内の林業者や県外の中小工務店を巻き込み、県外への展開を進める新しいビジネスモデルの提案を行っていききたい。



NC ルーターを使用して開けたドアノブの穴



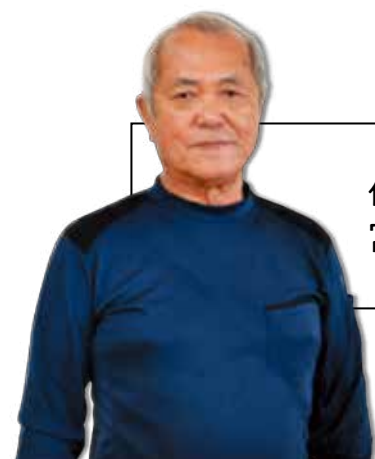
南城市大里にある工場の内部

Q 御社のモットーを教えてください

A 「仕事に対して熱心であること」。その結果、当社には建物をひとつ建てるだけの技術が備わるようになっている。

つむぐ × つなぐ

今後の取り組みについてお聞かせ下さい。



代表取締役
宮城 正宏 さん

これからのビジョン

当社では現在公共事業に関連した業務が中心となっており、それに尽力してきたことでノウハウもかなり貯まってきた。今後は、それを活かした事業展開をしていきたい。たとえばDIYで家具などを作る人がいるが、途中で板をまっすぐに切ったり、90度にカットしたりする工程がクリアできずにあきらめてしまうケースが多いと聞く。こうした工程を手作業で

行うにはプロの技術が必要なので、素人が挫折してしまうのはある意味当然でもある。そこで当社でカット済みの部材を提供するなどすれば、DIYで家具を作る人にとって朗報になるのではないか。こうした新しいジャンルを掘り起こして、収益アップに貢献していきたい。

家具・装備品製造業 有限会社旭日工芸

〒901-1203
沖縄県南城市大里字大城 2316-2
tel.098-946-9221 fax.098-946-9222



・代表者名	代表取締役 宮城 正宏	・設 立	平成16年11月
・資 本 金	300万円	・従業員数	11人